

「救いは十字架と復活にあり」

～人生の救いを体験する秘訣

「だれでも、わたしのもとに来て、父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分自身を愛する以上にわたしを愛する者でなければ、わたしの弟子になることはできません。恥と苦しみと死を意味する十字架を背負い、わたしに従って来る者でなければ、わたしの弟子になることはできません。」 ルカ福音書14章26・27節

イースターおめでとうございます！復活された主を心より賛美致します！！

近年日本の季節的商戦の一つとしてこのイースターを積極的に取り入れられるようになってきました。キリストの復活を記念するお祭りということを公に説明をしながら、卵やウサギをあしらって、デザインもおしゃれにして女性や子供をターゲットにしているとのこと。ハロウィーンと同じような感覚でイースターを考えている日本人も多くいるようです。ハロウィーンは教会とは全く関係ありませんが、イースターはクリスマスとペンテコステと同様に教会の三大イベントの一つでもありますので、教会としてもとても大切にしてきたものです。

二千年前のこの日、人間の最大の敵である死を打ち破った私たちの主イエス様。主が人間ではなく、神であったことを証明するためでもありました。しかし、この主の復活の前には、完全な「死」というものがありました。この世の生き方に対する「死」。そして、神に対する「生」としての復活という世界を私たちの模範として示されました。

主は、私たちに対して、「私に従って来なさい」とおっしゃいました。そのためには、「十字架を背負いなさい」ということを語られました。「十字架を背負う」とは、この世に対する「死」ということを背負い続けなければならないということです。私たちは「神」と「富」とに同時に仕えることはできないと語られています。「富」とはこの世の価値観の代表です。この世の物差しによって自分自身の人生を測り続けている間は、私たちの心には平安はありません。「神」という物差しによってのみ測る人生でなければ救いは体験できません。

私たちはこの世で生きている間は、この世の価値観、この世の意見を常に耳にします。しかし、私たちは神の子でもあるので、神のお声を同時に聞きながら生きていくことができます。それが祈りでもあります。その祈りの姿勢を忘れてしまうと、いつの間にかこの世の価値観で生きてしまいますので、神の子としての輝きは失われ、どっと疲れてきます。しかし、神の声を聴き、祈りの心で生活を始めると不思議と解放される体験をするようになるのです。

イエス様が語られたメッセージは何か難しいハイレベルなことを語られたのではなく、神の子、クリスチャンとして生きていく上でのベーシックな考え方を私たちに教えてくださっているのです。私たちが心柔らかにされ祈る時、天国の価値観で心平安で生きることができるのです。